

「オーストラリア研修を通して」

私はオーストラリアでの10日間を通して、日本では見られないような文化に触れ、学ぶことができるたし、ホームステイという貴重な経験をし、成長することができました。ホームステイではホストファミリーと野生のワラビーが見られる公園やブリスベンの街を一望できる場所に行ったり、ゴールドコーストでフィッシュ＆チップスを食べてペリカンを見たり、日本では経験できないことをたくさんさせてもらいました。ホストファミリーにはとても感謝しています。

オーストラリアで生活した中で日本とは異なる点をいくつか見つけました。1つ目は食べ物です。ホームステイ時の夕食では主食や汁物はなく、炭水化物はマッシュポテトでした。スーパーでもアイスは大容量パックが普通で個包装のものはコンビニでしか見ませんでした。オーストラリアならではのカンガル

一 肉 や ベ ジ マ イ ト も 食 べ る こ と が で き ま し た 。

驚 き が 沢 山 あ つ た け ど オ ー ス ト ラ リ ア の 食 文

化 が 好 き に な り ま し た 。 2 つ 目 は 動 物 に 対 す

る 行 動 で す 。 王 立 動 物 虐 待 防 止 協 会 を 見 学 し

た 時 、 全 て が 動 物 フ ア ー ス ト で 全 て の 動 物 に

自 然 に 戻 れ る よ う に 、 新 し い 飼 い 主 を 見 つ け

ら れ る よ う に 多 く の ボ ラ ン テ イ ア の 方 と ス タ

ッ フ の 方 が 大 切 に 保 護 し て い た の が 印 象 的 で

し た 。 3 つ 目 は 街 で す 。 ブ リ ス ベ ン 市 街 に 行

つ た 時 に 大 き な ビ ル が 沢 山 立 ち 並 ぶ 中 、 教 会

や 博 物 館 な ど 歴 史 あ る 建 物 も あ り ま し た 。 日

本 で は 見 な い 光 景 で し た 。 街 を 歩 く 中 で 私 が

と て も 驚 い た の は 至 る 所 に ゴ ミ 箱 が あ つ た こ

と で す 。 小 さ な ゴ ミ が 出 た と き に 少 し 歩 け ば

ゴ ミ 箱 が あ つ た の で と て も 便 利 で し た 。 そ の

お か げ で 街 を 美 し く 維 持 で き る の だ と 思 い ま

し た 。 私 は 町 づ く り に 興 味 が あ る の で と て も

お も し ろ い 発 見 が で き て 嬉 し か つ た で す 。

10 代 で こ の よ う な 経 験 が で き た の は と て も

貴 重 な こ と で し た 。 私 は この オ ー ス ト ラ リ ア

研修を通して外国について興味を持ち、将来
外国で生活してみたい意欲が湧きました。ま
た、オーストラリアで学んだ文化、感じたこ
とを生かして、よりよい社会をつくる人間に
なれるよう努めています。

「可児っ子海外交流訪問団を通して」

私はオーストラリアでの様々な経験を通して、特に印象に残ったことが2つあります。

1つ目は、素敵なお人たちとの出会いです。

初めてのホームステイに緊張している私にホストファミリーの方たちは優しく、明るく接してくれました。夕食後にしたカードゲームや放課後に散歩をしたこと、ホストブランザーのサッカーの試合を観戦したことなどホストファミリーと過ごした時間はかけがえのない思い出となりました。また、クリーブランドンド高校で出会ったバディと過ごした時間もとても大切な思い出です。私のバディは私が英語の発音を間違えてしまったときや、思つていることをうまく伝えられないときも優しく笑顔で私の話を聞いてくれました。時には日本語を交えながら、学校生活や家族のこと

将来の夢などについても話してくれました。

私が、お店のレジでどのお札やコインを出すべきか分からなく困っていたとき、一緒にお金とコインを数えてくださった店員さんや、おつりなしでお札やコインを出せたとき、少し時間がかかってしまっていても、笑顔でgoodやperfectと言つてくださいました。

2つ目は、オーストラリアの環境や動物愛護に対する意識の高さです。日本のスーパーが一ヶットではレジ袋がレジ横に置いてあるのが基本ですが、オーストラリアのスーパーが一ヶットではレジ横にレジ袋が置いてあるところを全く見ませんでした。また、街中でもマイボトルを持ち歩いている人や給水場をよく見かけました。王立動物虐待防止協会の見学や野生のコアラ観察、オーストラリア交流顧問の方のお話をなどを通して、オーストラリアの動物愛護の意識の高さを感じました。

オーストラリアでは自然を大切にし、人間も

動物も生きやすい環境をつくることを大切に
していふと分かりました。

私はオーストラリアで過ごした10日間で多く
のものを見た。自分で見て、耳で聞いて、手で触れて、自分自身の考え方や世界が
広がったと感じました。素敵な人たちと出会
い、過ごした10日間はかけがえのない思い出
です。今回学んだことを、これから的人生にもつなげていきたいです。

「オーストラリアで学んだこと」

8月13日から8月22日まで、オーストラリアのレッドランド市とブリスベン市を訪問しました。この研修を通して、現地の文化や人々との交流を経験し、多くの学びを得ることができました。

特に心に残つていりるのは、オーストラリアの野生動物や、それを守ろうと活動している人々です。王立動物虐待防止協会では、具体的な動物保護の取り組みについて学ぶことができました。施設担当者のセミナーや現地の方のお話では、「日本にも動物の保健所はあるが、建設目的が逆である。オーストラリアでは動物を守るために建設されていくのに対し、日本では動物が持つウイルスから人間を守るために建設されている。」という説明がとても印象的でした。また、動物保護には多額の費用がかかるので、その不足分を募金で補つているという点も心に残りました。

さらには、ホームステイやクリーブランド高校で最も貴重な経験ができました。英語で現地の方と話すことは難しく、思うようには会話ができきれない場面もありましたが、オーストラリアの方々はとても優しく、少しずつ会話ができるようになりました。高校のバディの生徒も日本語を勉強していく中、日本語でも話しかけてくれました。連絡先も交換し、現在も英語でやり取りを続けています。

今回の研修でさまざまなかな人と出会い、交流する中で、自分の視野が広がったと感じました。今後は英語をさらに勉強し、将来もう一度オーストラリアを訪れて、今回の学びをより深めたいです。

私は今回のおーストラリア派遣でたくさん
の貴重な経験をすることができました。
まず初めに訪れたRSPCAという動物保護施設
では様々な動物を見ることができました。そ
の中でも一番印象に残っているのは蛇です。脱
皮中の蛇を見るることはなかなかできないそう
なのでいい経験となりました。また、動物を見ただけではなく、働いている方から、動物を
守るために活動や現地での取り組みについて
お話を聞きました。普段、日本ではなかなか
知ることのできない動物保護の美情に触れ、
動物と人との関わり方にについて再度考えさせ
られる良い機会となりました。

次に市役所に訪れ、表敬訪問を行いました。
現地の方々が温かく迎えてくださったり、有
名人にもお会いすることができたりして嬉し
かつたです。また、クリーブランド高校では、
日本語の授業に参加しました。現地の高校生
と交流する中で、苦手な英語を使つてたくさん
会話をするということに挑戦できました。初

めは緊張したけれど、たくさんの方達ができて、英語を通して伝わる嬉しさを実感できました。次にノースストラドブローグ島では、島内の視察を行いました。日本では見ることのできない野生のコアラ、カメ、カンガルーなどを見ることができて本当に良かったです。さらにもう少し海や景色を見ることができました。オーストラリアの自然の豊かさを改めて実感しました。また、ホームステイでは、ホストファミリーに書道と茶道を体験してもらいました。現地の方々に日本の文化を紹介できたことは、私にとって大きな経験でした。茶道では、茶法一つ一つに興味をもつてくれたり、書道では筆を使つて字を書く楽しさを体験してもらったりしました。文化の違いを超えてお互に学び合えたとても貴重な時間となりました。

今回のお互いに学び合えたとても貴重な時間となりました。今回のオーストラリア派遣で、動物や自然人や文化とのたくさんのお会いがありました。これららの経験を今後に生かして今後の人生を

よりよいものにしていきたいです。

「初めての海外」

まず、この可児っ子海外交流訪問団派事業に

関わってくださった交流委員会の方を初め、

可児市役所の皆さん、現地で誘導してくれた両親、たくさんの方に深く感謝を申し上げます。

本当にありがとうございました。

私がこの企画を知ったきっかけは、中学のときお知らせで配られたことです。元々私は英語の教師になりたいと夢を持っていたため、これを機に英語の勉強の参考にしようと思いまして申しこみをしました。私にとって初めての海外だったのですごくドキドキしていました。

私がオーストラリアに行つて印象に残つていることを2つお話ししようと思います。

まず、1つ目は、ホームステイ先での生活です。最初は馴染めるかすごく心配だったのですが、ホストマザー一もファザーも本当に優しくて、子供が3人いたのですがすごく可愛

くてとても楽しかったです。私たちをつれて
 大きなシヨツピングモールにつれて行ってくれ
 れたり、お土産としてオーストラリアのお菓子やメモ帳、ぬいぐるみなど準備していく
 れたり、たくさんおいしきご飯を作ってくれ
 ました。
 2つ目は、クリーブランド高校でバディと
 色んな話をができたりご飯を食べたりできて貴
 重な体験ができたことです。みんなゆっくり
 話してくれたり、日本語で話してくれたりし
 て嬉しかったです。
 最後になりましたが、一緒に行ってくれた
 みんな。たくさんゲームしたり、話したり、
 すごく楽しい時間がありがとう。絶対に忘れ
 ない経験ができました。改めて、関わってく
 ださった皆さん、本当にありがとうございま
 した。また機会があつたら行きたいです。

「SDGsと将来」

私はこのオーストラリア研修に参加して大きく変わったことがあります。それは自分の将来の考え方です。私は今まで自分の将来を日本にだけで収めていました。大学も日本の中で、就職や将来住みたいとここまで、でもこの研修を通して、実際にオーストラリアの大學生に行き、今オーストラリアで仕事をしている方の話や、オーストラリアに住んでいる日本人の方のお話を聞いたり、ホストファミリーと一緒に話したりして、自分にとって将来の道が日本からオーストラリアに広がりました。今はオーストラリアに将来1年くらい留学したいなと思っています。

また、私はオーストラリアに行つて学んだこともたくさんあります。そのうちの1つはホストファミリーとマックを食べたときにはえてもらつたことです。私は勝手に海外のマックは全部アメリカンカナサイズだと思っていました。

し た 。 で も 実 際 は 日 本 で は 成 人 が お 腹 い つ ぱ
い に な る チ 一 ズ バ 一 ガ 一 セ ッ ト が オ ー ス ト ラ
リ ア で は 子 供 が お 腹 い つ ぱ い に な る く ら い の
小 さ い サ イ ズ で 売 ら れ て い ま し た 。 ポ テ ト も
日 本 と 比 べ て 内 容 量 が 少 な く 解 釈 違 い だ な と
思 つ た こ と を ホ ス ト マ ザ ー に 話 し た ら 、 こ ん
な こ と を 教 え て く れ ま し た 。 オ ー ス ト ラ リ ア
で は 食 品 ロ ス を よ く 気 に す る か ら サ イ ズ が 日
本 よ り も 小 さ い の か も ね 。 私 は こ れ を 聞 い て
オ ー ス ト ラ リ ア の SDGs へ の 意 識 の 高 さ に び っ
く り し た の と 同 時 に こ ん な に 他 の 国 が こ ん な
に 工 夫 し て い る の に 日 本 は こ ん な か ん じ で 大
丈 夫 か な と 思 い ま し た 。 こ れ か ら は この 研 修
で 学 ん だ こ と を 活 か し て 次 は SDGs に つ い て 調
べ た い で す 。

「挑戦と新鮮さにあふれた滞在」

私はこの夏、一生忘れることができない貴重な体験をしました。オーストラリアへ行つて楽しかったことは、現地の学校の人とのコミュニケーションです。オーストラリアの人はあたたかく、普段住んでいいる国や言語が違つても気さくに楽しく話しかけてくれました。

学校にはオーストラリア出身の人だけでなく、日本人やイギリス人、韓国人の人など多種多様な国籍の人人がいてとても驚きました。学校で多文化交流ができるのはとても魅力的だと感じました。日本の学校とは違つた授業の進め方や教室、中庭が新鮮でした。またモーニンググレイマーという文化もあり、最初は少し戸惑つたけど慣れていき、楽しい一時を過ごすことができました。ホストファミリーには、海やスーパー・マーケットなどに連れて行ってもらいました。オーストラリアの自然は壮大できれいで、時間を見忘れてしまいそうになります。

し た 。 ま た 、 コ ア ラ も 見 る こ と が で き 、 と て
 も う れ し か つ た し か わい か つ た で す 。 ス 一 パ
 一 マ 一 ケ ッ ト は と に か く 広 い し 商 品 一 つ 一 つ
 が 大 き く 、 そ の 場 に い る だ け で ワ ク ワ ク し ま
 し た 。

私 は 王 立 動 物 虐 待 防 止 協 会 へ 行 き 、 さ ま ざ
 ま な 学 び を 得 る こ と が で き ま し た 。 施 設 内 を
 見 学 し て い て 驚 い た こ と は 、 イ ヌ や ネ コ だ け
 で な く 、 ヘ ビ や ト カ ゲ 、 テ ン ジ ク ネ ズ ミ 、 馬
 な ど た く さ ん の 種 類 の 動 物 が い た こ と で す 。

ま た 、 日 本 の 保 健 所 は 飼 い 主 が 見 つ か ら な か
 っ た ら 殺 処 分 を し て し ま う け ど 、 王 立 動 物 虐
 待 防 止 協 会 は 重 度 な 怪 我 に よ り 生 存 す る こ と
 が 苦 痛 な 場 合 以 外 、 殺 処 分 を し な い こ と も 知
 り ま し た 。 ま た 、 ど れ だ け 飼 い 主 が 見 つ か ら
 な く て も 新 し い 飼 い 主 が 決 ま る ま で 保 護 す る
 そ う で す 。 この 施 設 は 動 物 フ ァ ー ス ト で 、 と
 て も 温 か い 場 所 だ な と 思 い ま し た 。

こ の オ ー ス ト ラ リ ア の 研 修 の 経 驗 を 生 か し
 て 、 世 界 に は 様 々 な 文 化 が あ る と い う こ と を

常 常 に 頭 に 入 れ た り 日 々 の 英 語 の 授 業 に よ り 一
層 真 剣 に 取 り 組 ん だ り と 、 将 来 、 世 界 で 活 躍
で き る よ う な 人 間 に な り た い と 思 い ま し た 。

「オーストラリアの人々と触れ合って」

僕にとってこの十日間は、様々なことを学ぶことができたし、たくさんの人と接することができた素晴らしい日々でした。

特に印象に残っているのは、ホストファミリーーとの日々です。二日目に初めてホストファミリーより対面する時、僕は少し緊張していました。しかし、対面して、僕がしたあいさつに笑顔であいさつし返してくれた時、僕は少し緊張が緩みました。その後、お互にたくさんのお話をしているうちに、僕の緊張はすっかり消えていきました。ホストファミリーーはたくさんのお話を立ててくれていて、毎日がとても楽しかったです。ホストファミリーーが連れて行ってくれたところでの活動や景色は、今も鮮明に覚えていきます。

また、現地の高校の生徒と仲良くなれたことも、この旅で印象に残っていることの一つです。僕のバディとは共通点が多く、やつて

いるゲームやみているアニメで話が盛り上がりが
 りました。僕が持つてきた日本の菓子をあげた時は、すぐに開けておいしいと言いながら食べていたので、持つてきてよかつたなという気持ちになりました。生徒と一緒に日本語の授業を受ける時は、みんなと日本語で自己紹介をしたり、パソコンを使ってゲームをしたりするなど様々な活動で親睦を深めることができました。

この旅で、僕は自分の英語に自信が持てたのと同時に、課題も見つけました。それは、自分の覚えている単語が少ないということです。日常会話で出てくる単語は覚えているもののが多いですが、王立動物虐待防止協会の方の説明を聞く時、ガイドの方が英語を日本語に直して言ったことを教えてくれましたが、英語だけでは言っていることがあまりわからなかつたので、そこで自分の課題は覚えるべき単語数だと認識しました。

このように僕は、様々なる経験ができたおかげ

げで、自分が今後するべきことを明確にでき
ました。今、課題を克服するために、単語帳
で勉強をしていきます。この機会を作ってくれ
た可児市に感謝しています。本当にありがと
うございました。

「初めての海外」

私にとって可児っ子訪問団としてオーストラリアを訪れたことは初めての海外体験でし

た。今回はその中でも特に印象に残った事が

2つあります。

1つ目はホストファミリーについてです。

ホームステイも初めての体験だつたので、ホ

ストファミリーに会うまでの待ち時間はとて

も緊張しました。ですが、そんな緊張は元か

ら無かつたのかもしれないと思うくらい約1

週間のホームステイを楽しく過ごすことが出

来ました。毎日学校の後はイベント事やキッ

ズクラブなどたくさんの人と関わることが出

来る場所に連れて行っていただき、子どもか

ら大人まで色々な世代の方々と話すことがで

きました。また、休日には日本ではあまり関

わる機会がない教会でキリスト教の演説を聞

かせていただいたり、夕方にはビーチに連れ

て行つていただいたりと、とても充実した日

になりました。そして、本当に素晴らしい体験をいくつもさせていたただいてとても貴重な時間になりました。

2つ目は高校に3日間通ったことです。日本の中学校とルールや文化が全く違って最初に戸惑うこともあったけれど、授業では生徒さん達とお互いの事を紹介し合ってたくさん友達を作ることが出来ました。また、モーニングティー や昼食ではバディと一緒にたくさん話してたくさん笑い合いました。

バディの生徒も授業で同じになつた生徒もみんな本当に優しく、私のカタコトの英語でもしつかり耳を傾けて聞いてくれてとても嬉しかつたです。最後、学校を離れるのが本当寂しく、向こうの人たちも同じ事を言つてくれました。たくさんの中学生が児市に遊びに行きたいと言つてくれて本当に嬉しかつたし、私もまたオーストラリアに行きたいと思いましました。

これららの体験を経て、私はオーストラリア

を訪れる前に決めていた目標である「チャレンジ」をしつかり達成させることが出来たなと実感することができました。ホームステイの時も自分から話題を振って話をしたり、ハイデイに可児市の魅力を伝えたりするなど積極的に自分から話しかけることができました。

今回訪問を通して、より自分から話を広げ、学校などの話し合いでももつといい話をし合いになるようにしていきます。

また、これから社会に出てからもチャレンジをすることを忘れず、芯のある社会人になれるよう努めを続けていきたいです。

「オーストラリアで学んだこと」

可児っ子海外交流訪問団として、10日間の研修に参加しました。研修の目的としていたのは、日本とは異なる野生動物との関わり方にについて、アメリカ英語やイギリス英語との共通点や相違点についてという大きく2つのことについて学ぶためです。

14日に訪問した、RSPCAは、オーストラリア最大の動物保護団体です。ボランティアは約3000人もおり、24時間体制で動物たちのケアをしています。対象動物には、犬や猫の他に鳥や魚、カメやヘビなど多岐にわたります。主な活動は動物の保護および譲渡、動物虐待の調査、教育支援などです。活動は、企業や遺言による寄付、募金、イベントなどに支えられています。そして、殺処分は病気など特別な場合を除いて、基本的にに行われません。コアラやカンガルーなどの野生動物と共に生ずるオーストラリアでは、動物福祉の向

上に対して非常に積極的であると分かりました。しかし、オーストラリアに生息するコアラは、国内で絶滅危惧種に選定されていて、教わり、動物福祉を大切にしていても、すべての動物を救うのは難しいことだと思いました。日本では殺処分ゼロはまだ達成されておらず、保護団体への過度な負担などが課題となりつています。そのため日本の動物保護にはより多くの支援が必要だと感じました。

研修では、多くの現地の方と英語で話すことができました。特に、ホストファミリーといろいろな話ができて嬉しかったです。例えば、オーストラリア英語を話すときは上唇をあまり動かさないことがポイントだとホストファザーが教えてくれました。また、オーストラリアはイギリスの植民地であつたため、アメリカ英語よりもはイギリス英語に近い英語が話されていると知りました。新しく知った単語もありました。イルミネーションは「fairy lights」、「North Stradbroke Island」を略して「Straddie」、

校内の商店は「tucks shop」などです。聞き取れ
なかつた英語も多くあつたので、これからも
つと勉強しようと思いました。
この研修での経験は、視野を広げる大きな
経験となりました。引率や市役所の方々、そ
して団員の皆さん、本当にありがとうございました
ました。

「オーストラリアでの学びと思い出」

私が今回の研修で印象に残ったことは主に2つあります。

1つ目は、初のホームステイを経験できました。ホストマザーが初日から色々な場所へ連れて行ってくれて、そのおかげでブリスベンやレッドランドのこと澤山学べました。また家では、ホストシスターと一緒にダンスやボーダゲームをしたりして仲を深められ楽しかったしうれしかったです。

2つ目は、オーストラリアの学校生活についてです。日本の学校と違うことが多く毎日が驚きの連続でした。授業では、生徒が中心の授業になつていって、周りの目を気にしそうに発言したり、先生に質問したりできる環境が整つていってすごくいいなと思いました。また、高校3年生の日本語を学んでいる生徒と一緒に折り紙で鶴を折った時に、折り方だけじゃなくて、おたがいの趣味の話とかもできてす

ごく楽しかつたです。

最後に、学校も学年もちがう14人と一緒に

海外へ行くといふことは私にとってとても貴重な経験になつたし、空港でみんなで同じTシャツを買つたりできて、まだみんなと一緒に

にオーストラリアにいたいと思えるくらいと

ても充実して、楽しい10日間になつてほんと

うに良かつたです。

「充実した10日間を過ごして」

初めて外国へ行き、ホームステイをし、外

国の中でも特に印象に残ったことは、オーストリアは日本と違って多民族国家、多民族文化の国だということです。私がホームス

テイさせていただいた家族はオランダにルーツがあり、オランダ語で話していたり、オランダのお菓子をくださつたり、オーストリア

アに住みながらも自分のルーツや文化を大切

にしてみえることが印象に残りました。クリ

ーブランド高校にも様々な国にルーツがある

生徒が多くいて、当たり前のようにお互いの

違いを受け入れ認めあい、自分らしく自由に

過ごしていく雰囲気がとても心地よく素敵だ

なと思いました。可児市にも外国の方が多く

住んでいるので、オーストラリアのようにお
 互いのルーツや文化を尊重しながら、それぞ
 れが自分らしく豊かに過ごせる町になるとい
 いなと思いましたし、まずは私自身が他人と
 の違いを気にしあ過ぎず私らしくいたいと強く
 感じました。
 また、オーストラリアと日本には貿易など
 を通して様々に繋がりがあるといふことにも
 驚きました。学校で日本語を学んでいたり、
 日本車がたくさん走っていたり、ホストブラン
 ザーが描いた富士山の絵が飾ってあつたりと
 日本に触れる機会が多くあり嬉しく思いました
 たし、日本と繋がりのある国についてもつと
 知りたいと思いました。クイーンズランド大
 学では、高校で教えてもらつた有名な実験装
 置の実物を見ることができ感動しましたし、
 地理や歴史などで学んだことも自分の目で見
 て実感できたのが嬉しかつたです。
 また、動物の保護施設を見学し、ボランテ
 ィア活動でこの事業が支えられていくことに

感銘を受け、動物の保護活動についても知つていたいと感じました。多くの方のお力添えのおかげでとても貴重で特別な経験をさせていたただいたことに心より感謝の気持ちでいっぱいです。この学びを生かして将来について考えていくしたいと思つていります。本当にありがとうございました。

「オーストラリア研修から学んだ世界、共通語」

僕がオーストラリアで学んだことは、人とかかわること、つまりコミュニケーションです。僕は英語が本当に得意ではありません。しかしホームステイが終わるとき、すごく悲しく、ずっとここにいたいと思いました。初めて僕が家に行つたとき、自分の英語の話せなさに申し訳なさや、悔しさがありました。

疲れていたこともあり、自己紹介さえできませんでした。次の日、他の団員がバディとまく話せていたのを見て、リアクションをとるなど、僕も少しずつ話していくことができました。それが自信にもつながり、家族とも会話がスムーズにできるようになつてきました。言葉が通じなくとも、相手に伝えたい、話したいと強く思えれば、相手も真剣に聞いてくれます。だからこそ、言葉が通じること以上に、コミュニケーション能力

は大切で、ある意味コミュニケーション能力

は、世界共通の言語ではないかと思いました。

そんな風に感じられたからこそ、僕はずつと

ここにいたいと思えたのです。

そんな気づきもあれば、オーストラリアな

らではの発見もたくさんしてきました。

まずは、オーストラリアの人々はみんなフ

レンドリーで優しかったことです。外でのあ

いさつはもちろん、知らない僕にまで声をか

けてくれました。お店の人も丁寧に、笑顔で

接客してくれましたのでとてもうれしかった

です。学校では、バディがわからない単語を

別の言葉に置き換えて教えてくれました。そ

れだけではなく、冷めてしまったピザを見て温

める場所まで連れて行ってくれました。

もう一つは、オーストラリアが自然豊かな

国だと気づいたことです。正直オーストラリ

アと言つても日本、可児市と変わらないと思

つていました。しかしオーストラリアには守

られた自然がありました。野放しにせず、管

理が行き届いた自然がありました。ノースストラーダードブローグ島や国立公園のような観光地やブリスベン川のような水上交通手段などの多くの場所で自然が、人々の生活に欠かせないものになつていきました。だから、ブリスベンのような大都市でも、多くの自然を見ることができたのだと思ひます。

次に、学習面でもオーストラリアの日常英会話を理解しようと勉強したり、知つていて単語を利用して会話を作つていつたりすることができました。オーストラリア交流顧問の方の進路や人生の転機の話など、自分の人生設計に新しいアイデアが生まれ、とてもいい勉強になりました。

さらには、僕は星や宇宙が好きで北半球では見られない、南十字星を見てきました。暗くて写真は撮れませんでしたが、初めて見る天体を見て驚きました。また、よく見ると天の川の見え方が北半球とは違つていて、その空を見上げながら、地球はやはり丸いのだなと

思いました。加えてホストファミリーも星好
きで趣味が合い、二人で宇宙について話すこ
とができて、とてもうれしかったです。

この研修を通して、第一に、コミュニケーションケー
ションについて学びました。英語が話せなく
て言葉が通じなくとも自分の思いを伝えられ
るよう努めます。これが生きていく際にと
ても大事なことだと学ぶことができました。

日本人同士なら、言葉が通じて、お互いを本
氣で理解し合おうとしません。それが喧嘩や
トラブルの原因でもあり、誤解の発端である
と思いました。言葉が通じてもお互いを真剣
に理解していくことが大切だと思います。

コミュニケーションションは挨拶から始まるもの
だと思います。挨拶はコミュニケーションの一
番初めて、一番簡単なものですね。コミュニケ
ーション能力をさらに高めるにあたって、こ
れからも挨拶は大切にしていきたいです。

この研修で学んだことを生かして、私は後

期生徒会に立候補します。相手を真剣に理解し合うことと、挨拶を大切にした学校作りをしていきたいです。

コミュニケーション能力が世界共通の言語ならば、言葉が通じ合える人でもしつかりと理解し合うことができます。将来、どんな道に進んでも、コミュニケーションを忘れずに生活していきます。

「オーストラリアの感想」

僕は、今回の中修を通して多くの文化の違いや、生活の違いなど学ぶ事が出来ました。

オーストラリアには動物を大切にする文化があり、支援団体だけでなく、国民の支援もある中で動物が守られている事が分かりました。

オーストラリアで有名なコアラやカンガルーだけでなく、一般家庭で飼われるような犬や猫、その他にも魚やトカゲが保護されていて驚きました。動物との距離もすごく近くて、カンガルーとふれあったり、町にトカゲが居たりしました。オーストラリアの生活では日本では体験出来ないような事が多く、スーパーマーケットのお金の単位がドルになつていて非日常感をとても感じました。家の中でも靴をはくし、多くの文化を取り入れているので、日本のお米やおこのみ焼きなどがあります。町並みは、一つ一つのビルがおしゃれで、かべにスプレーで絵が描かれていたり、

ゴミ箱のような物にアートのような物も多く
歩いていて楽しかつたです。僕の一一番の思い
出は、夜町を歩いて買い物などをした事です。
ブリスペンは東京や大阪のようになビルがギチ
ギチしているわけでなく、一つ一つのデザイ
ンにこだわつていって、どこを見てもおしゃれ
と思う雰囲気でした。一緒に行つたメンバー
は学校も学年も違うけれど、仲良くなれたし
いい思い出も作れて良かったです。帰りの飛
行機では、夜とてもキレイな景色が見られた
けど、帰つてきちゃつたなと悲しくなりまし
た。また同じメンバーで行きたいぐらい楽し
かつたです。

「オーストラリア留学を経験して」

私はオーストラリア留学を通して、英語力の向上や異文化に触れてみたいと思いまして、この研修に参加しました。

一番私の印象に残っているのは、現地のクリーブランド高校で授業を受けたことです。最初はとても緊張しましたが、多くの生徒が色々と話しかけてくれて楽しく過ごすことができました。また、その高校では日本とは違つていろんな国籍の生徒が通つており、授業や学年のシステムが違うことが印象的でした。

さらに日本語の授業も行われており、日本語で話しかけてくれた生徒が多くいたことにも驚きました。

また、予想していた以上にオーストラリアは自然が豊かで、ノースストラドブローグ島を訪れた際には野生のコアラ、カンガルー、ワラビー、ウミガメを見ることができたことでも新鮮でした。またいつか訪れたいと思つて

い ま す 。

今 回 の 留 学 を 通 し て 、 英 語 で の コ ミ ュ ニ ケ

ー シ ョ ン や 、 両 親 と 離 れ て 生 活 す る こ と は 大

変 な こ と も あ つ た け れ ど 、 この 経 験 は 私 の 自

信 に つ な が つ た と 思 い ま す 。 将 来 、 私 は 英 語

を 使 つ た 職 業 に 就 き た い と 考 え て い ま す 。 英

語 を 生 か す 職 業 は 様 々 で す が 、 私 は 中 で も 税

関 職 員 に な り た い と 思 つ て い る た め 、 実 際 に

税 関 職 員 が 空 港 で 働 い て い る と こ ろ を 見 る こ

と が で き た 今 回 の 留 学 は と て も 貴 重 な 体 験 で 、

税 関 職 員 に な り た い と い う 思 い が よ り 一 層 強

く な り ま し た 。

私 に と つ て 今 回 の 研 修 が 初 め て の 海 外 経 験

で し た 。 引 率 し て く だ さ つ た 方 た ち を は じ め 、

ホ ス ト マ ザ ー や 現 地 の 先 生 や 生 徒 の 皆 さ ん が

私 た ち の こ と を 気 に か け て く だ さ つ た お か げ

で 、 十 日 間 と い う 短 い 期 間 で し た が 、 安 心 し

て 楽 し く 充 実 し た 時 間 を 過 ご す こ と が で き ま

し た 。 留 学 は 英 語 力 の 向 上 以 外 で も 自 分 の 世

界 を 広 げ ら れ る よ い 経 験 に な る と 思 う の で 、

ぜひ今後も多くの方にとも参加してほしいと思
いました。